



# 上田八木マーケットレポート(2018年1月)

## ～2018年の短期市場は波乱なくスタートか

2018年1月4日(木)  
上田八木短資株式会社

### 1. 国内経済情勢

(経済・景況判断)

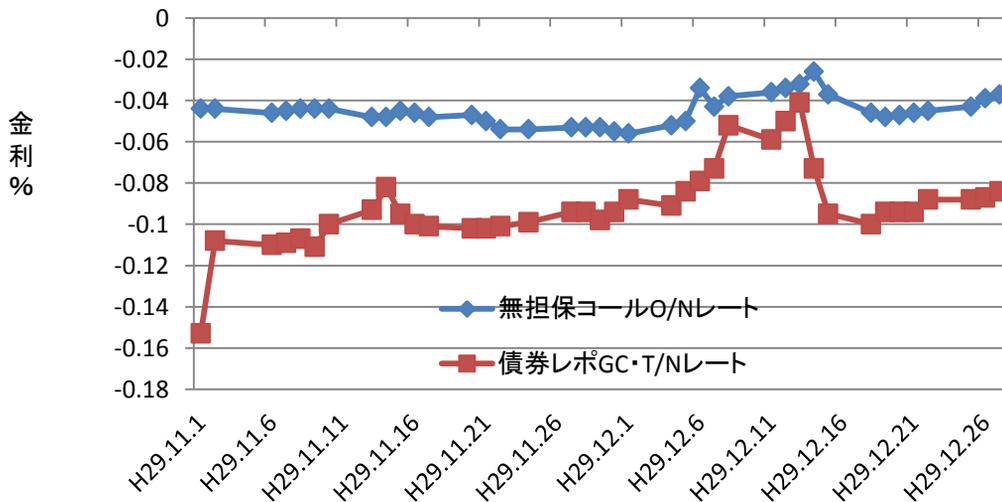
10月の景気動向指数(CI)一致指数(改定値)は、前月から0.2ポイント上昇し116.4となった。政府は12月の月例経済報告で、国内景気の基調判断を「緩やかな回復基調が続いている」とし、7カ月連続で据え置いた。設備投資はこれまでの「持ち直している」から「緩やかに増加している」に修正し、輸入、生産の判断も上方修正した。

### 2. 短期金融市場の動向

(12月の短期金融市場動向等)

12月の日銀当座預金残高は364兆円台でスタート、4日に税・保険揚げを主因として356兆円台に減少したが、月中、年金定時払い等で戻し、結局368兆円台で越月した。無担保コール・オーバーナイト・レートは、月初、加重平均レートで▲0.056%で始まったが、積みの後半で調達圧力が強まり、14日には▲0.026%まで上昇した。ターム物は年内物を中心とした出合い、レンジは▲0.04～▲0.03%程度だった。債券レポGCレートも積みの最終日にかけてレート上昇がみられ、東京レポレートのT/Nが▲0.041%まで上昇した。月の後半では▲0.10%～▲0.088%程度に落ち着いている。TB3Mの業者間取引は▲0.19%～▲0.15%程度であった。債券レポ、TB取引においては12月末の担保需要でレートが激しく変動することはなかった。CPの新規発行レートはあまり変化なくa-1格の銘柄で0%近辺の狭い銘柄間金利差での発行が続いている。

無担保コールO/Nレートと債券レポGC・T/Nレート



(1月の短期金融市場見通し)

引き続き、無担保コールオーバーナイトレートや債券レポGCレートは、積みの進捗とマクロ加算残高の空きを睨みながらの金利横ばい圏での動きが予想される。CP発行レートは横這い圏のゼロ%近傍での発行が続くと予想される。

### 3. 海外経済情勢

#### (金融政策)

米連邦公開市場委員会(FOMC)は12月12日、13日両日の定例会合で、フェデラルファンド金利誘導目標を0.25ポイント引き上げ1.25-1.5%のレンジに設定した。2018年については経済成長予測を上方修正したものの、3回の利上げ予測に変化は無かった。

#### (経済・景況判断)

米国では11月ISM製造業景況感指数が前月から0.5ポイント低下し58.2となった。11月雇用統計は、(1)非農業部門雇用者数が前月比22.8万人増加、(2)失業率は4.1%で横ばい、(3)平均時給が前月比0.1%増加(前年同月比2.5%増)。

11月のユーロ圏製造業景気指数(PMI)改定値は60.1と、前月比1.6ポイント上昇。17年ぶりの高水準となった。

### <主要経済指標カレンダー>

	日本		米国
		国債入札	
1月 1日 2日 3日 4日 5日		・国庫短期証券(3ヶ月)	・ISM製造業指数 ・雇用統計
8日 9日 10日 11日 12日	・景気先行指数、景気一致指数(速)	・国庫短期証券(6ヶ月) ・国庫短期証券(3ヶ月)	・卸売物価指数 ・消費者物価指数、小売売上高
15日 16日 17日 18日 19日	・国内企業物価指数 ・機械受注 ・鉱工業生産(確)	・国庫短期証券(1年) ・国庫短期証券(3ヶ月)	・住宅着工件数
22日 23日 24日 25日 26日	*金融政策決定会合(22~23) ・景気先行指数、景気一致指数(改) ・全国消費者物価指数	・国庫短期証券(3ヶ月)	・中古住宅販売件数 ・新築住宅販売件数、耐久財受注
29日 30日 31日	・失業率 ・鉱工業生産(速)		*連邦公開市場委員会(FOMC)(30~31) ・10-12月期雇用コスト指数

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会